

中 学 校

令和 4 年度

# 教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
	1 調査研究	3
	2 授業検討・検証授業	3
	3 研究構想図	4
V	研究の内容	5
	〈指導事例1：第1学年〉	5
	〈指導事例2：第2学年〉	8
	〈指導事例3：第3学年〉	11
VI	研究のまとめ	14

# 研究主題 **考えを形成する力の育成を目指した、 「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた指導の工夫**

## I 研究主題設定の理由

「考えを形成する力」について、中学校学習指導要領解説国語編（平成 29 年 7 月）（以下、「解説」と表記。）では、「全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、『考えの形成』に関する指導事項を位置付けた。」と示し、重視している。

「考えを形成する力」に関連する「話すこと」については、「令和 4 年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）（以下、「国調査」と表記。）の質問紙調査において、「1、2 年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。」（肯定的回答 73.4%）、「令和 4 年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）（以下、「都調査」と表記。）において、「発表や話し合いのときは、話す内容や順序を考えてから話している。」（肯定的回答 79.6%）との結果が示されており、2～3 割の生徒が話の構成を考えることに課題があった。

また、「聞くこと」については、「国調査」の国語に関する調査では、「論理の展開に注意して聞く」（平均正答率 69.1%）、「都調査」では、「他の人の話を聞くときは、メモをとって理解するようにしている。」（肯定的回答 61.7%）との結果が示されており、話を聞くことに課題が見られた。そして、「話し合うこと」について、「国調査」の質問紙調査では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」（肯定的回答 79.5%）との結果が示されており、話したり聞いたりする活動の中では、自分の考えを深めたり、広げたりすることに課題が見られた。

以上のことから、話し手として、根拠を明確にしたり、その適切さを考えたりして、話の構成を考えることを通して、自分の考えを形成することができるような指導や、聞き手として、各学年で示されている内容を意識して話を聞き、自分の考えを形成することができるような指導の工夫が必要であると考えた。

そこで、「A 話すこと・聞くこと」の指導事項の中でも相互に密接な関連のある、「話すこと」の指導事項イと「聞くこと」の指導事項エを関連付けて指導することで、それぞれの資質・能力を効果的に育成したいと考え、研究主題を「考えを形成する力の育成を目指した、「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた指導の工夫」とし、「話すこと・聞くこと」の領域で求められる指導の工夫について研究を行うこととした。

## II 研究の視点

本研究における「考えを形成する力」とは、以下のように定義した。

自分の立場や考えが明確になるように話の構成を考えることを通して、自分の考えを形成するとともに、話の展開に注意しながら内容を聞き取り、互いの考えを比較したり、聞き取った内容や表現の仕方を評価したりして、自分の考えを形成する力

「話すこと・聞くこと」の学習は、話し手と聞き手との関わりの中で成立する学習であるため、「話すこと」、「聞くこと」、「話し合うこと」の各指導事項は相互に密接な関連がある。また、話合いの過程では、「話すこと」と「聞くこと」に関する資質・能力が一体となって働くため、指導に当たっては、「話すこと」に関する指導事項と「聞くこと」に関する指導事項との関連を図ることが重要である。

そこで、本研究においては、「A 話すこと・聞くこと」の指導事項の中でも相互に密接な関連のある指導事項イ「構成の検討、考えの形成」と、エ「構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有」に着目し、これらの指導事項を関連付けて指導することで、以下を身に付けさせたい力として設定した。(表1)

表1 身に付けさせたい力

話すこと	自分の立場や考えが明確になるように話の構成を考えるを通して、自分の考えを形成する力
聞くこと	話の展開に注意しながら内容を聞き取り、互いの考えを比較したり、聞き取った内容を評価したりして、自分の考えを形成する力

各学年の関連する指導事項は、表2のとおりである。

表2 関連する指導事項

学年	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと	
	指導事項イ 構成の検討、考えの形成	指導事項エ 構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有
第1学年	自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。	必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。
第2学年	自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。	論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。
第3学年	自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。	話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすること。

### Ⅲ 研究の仮説

本研究では、以下の2点の指導方法の工夫に取り組むことで、「話すこと・聞くこと」における自分の考えを形成する力をより高めることができると考える。

#### 1 「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた活動の設定

第1次では、話し手と聞き手が一定の立場や考えをもつことができる話題について、構成メモを作成させることで、自分の考えを形成させる。ここで述べる「話し手と聞き手が一定の立場や考えをもつことができる話題」とは、スピーチ等を聞いた聞き手が自分の考えとの共通点や相違点、自分の考えに取り入れたいことについて考えを深められる話題である。

第2次では、話し手として自分の考えを形成した活動を生かして、話の展開に注意しながら聞き取り、互いの考えを比較したり、聞き取った内容を評価したりする活動を設定する。以下のように、学年段階に応じた聞き方を意識させ、聞く目的をもたせながら、話し手として形成した自分の考えとの共通点や相違点、自分の考えに取り入れたいことを聞き取らせる。

表3 学年段階別の聞き方と聞く目的

学年	聞き方と聞く目的
第1学年	必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉えること。
第2学年	論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較すること。
第3学年	話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価すること。

また、言語活動及び「解説」に示された言語活動例は、表4のとおりである。

表4 言語活動及び言語活動例

学年	言語活動	言語活動例
第1学年	・自分の考えを発表しよう	ア 紹介や報告など伝えたいことなどを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。
第2学年	・自分の考えを提案しよう	ア 説明や提案など伝えたいことなどを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動。
第3学年	・説得力のある主張をしよう	ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動。

## 2 考えの形成を重視した活動の設定

「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた活動を基に、自分の考えを再構築する活動等を設定することで自分の考えを形成する力をより高め、他の教科等にも生かせる力を育む。自分の考えを再構築する活動の際には、自分自身が聞き手として他の人のスピーチ等を聞いて、話の内容や論理の展開、表現の仕方等について取り入れたいと考えたことも積極的に取り入れるように指導する。話すことと聞くことを関連させながら一つのテーマについて考えを練り上げていく学習過程を通じて、考えを形成する力を育成していく。

—仮説—

話し手として自分の考えを形成した活動を生かして、話の展開に注意しながら内容を聞き取り、互いの考えを比較したり、聞き取った内容を評価したりしながら、自分の考えを再構築する活動等を設定することで自分の考えを形成する力をより高めることができるだろう。

## IV 研究の方法

### 1 調査研究

令和3年度から令和4年度までの「国調査」や「都調査」等の調査結果を分析し、東京都の中学生の国語の課題を明らかにする。

### 2 授業検討・検証授業

研究の視点に基づき、単元の学習において、以下のような指導の工夫を行うことで、「考えを形成する力」の育成を図る。

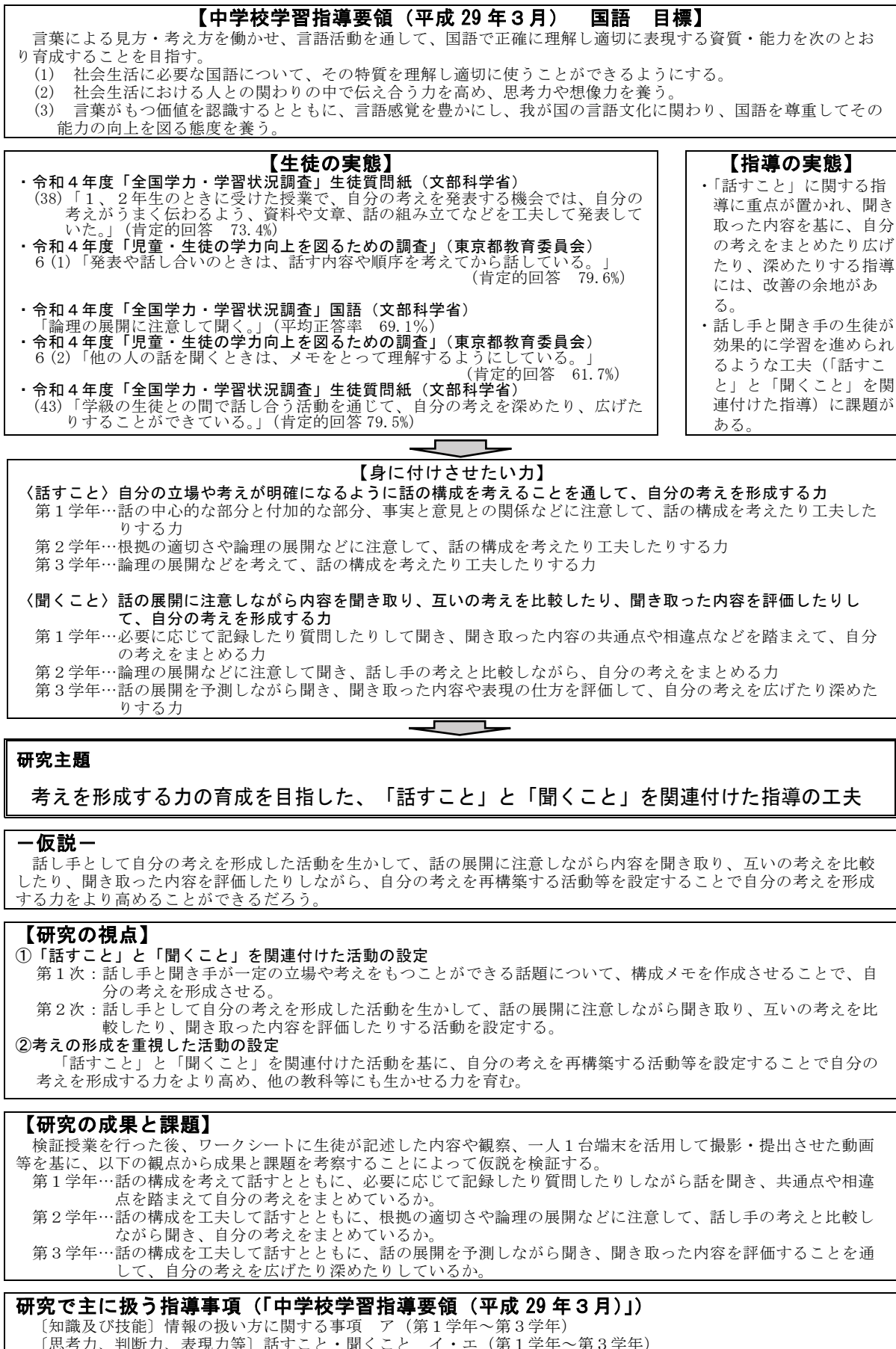
- (1) 「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた活動を設定する。
- (2) 考えの形成を重視した活動を設定する。

このような単元による検証授業を実施し、ワークシートに生徒が記述した内容や観察、一人1台端末を活用して撮影・提出させた動画等を基に、以下の観点から成果と課題を考察することによって仮説を検証する（表5）。

表5 検証の観点

学年	検証の観点
第1学年	話の構成を考えて話すとともに、必要に応じて記録したり質問したりしながら話を聞き、共通点や相違点を踏まえて自分の考えをまとめているか。
第2学年	話の構成を工夫して話すとともに、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話し手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめているか。
第3学年	話の構成を工夫して話すとともに、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容を評価することを通して、自分の考えを広げたり深めたりしているか。

### 3 研究構想図



## V 研究の内容

### <指導事例1：第1学年>

「話すこと」 話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えたり工夫したりする力を育成する指導事例

「聞くこと」 必要に応じて記録したり質問したりして聞き、聞き取った内容の共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめる力を育成する指導事例

#### 1 単元名

自分の考えを発表しよう—話し手と聞き手の立場を生かして、自分の考えを形成する—

#### 2 単元の目標

- (1) 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。  
〔知識及び技能〕 (2)ア
- (2) 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 A (1)イ
- (3) 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 A (1)エ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

#### 3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	① 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A (1)イ) ② 「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめようとしている。(A (1)エ)	① 進んで話の構成を考えるとともに、自分の考えをまとめ、学習課題に沿って自分の考えを発表しようとしている。

#### 4 教材

- ・教材（「話の構成を工夫しよう」「国語1」）
- ・ワークシート

## 5 主な学習活動

### 第1時（第1次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標及び学習課題を把握する。</li> <li>○ 話の聞き方や質問の仕方について理解する。</li> <li>○ 意見と根拠を整理することの必要性を理解するとともに、根拠となる事項について考える。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えが明確に伝わるような構成の工夫について理解することと、話し手の発表を自分の考えを深めるために活用することが、単元の目標であることを理解させる。</li> <li>・ 他者の意見を理解したり、自分の意見を述べたりする際には、意見を支える根拠を明らかにすることが重要であることを理解させる。</li> </ul>	<p>[知識・技能] ① ワークシート</p>

### 第2時（第1次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 「学級をよくするためにできることを提案する」というテーマについて、構成メモを作成する。</li> <li>○ 構成メモを基に、発表の練習をする。</li> <li>○ 構成メモを一人1台端末で記録する。【静止画の撮影】</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集めた材料等の配列の仕方や、接続する語句等に注意するなど、伝えたい内容を分かりやすく伝えられるように話の構成を工夫させる。</li> <li>・ これまでの学習で取り組んだ、音声の働きや仕組みについて、理解を深めたこと等を発表に生かすよう指導する。</li> <li>・ 撮影した構成メモの写真は提出させる。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現] ① ワークシート・観察</p>

### 第3時（第2次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 互いの発表を聞き、質問・助言する。【動画の撮影】</li> <li>○ 聞き取りメモに、自分の考えとの共通点や相違点を書き込み、自分の考えに生かすことができる内容に線を引く。</li> <li>○ 聞き取りメモを基に、自分の考えを再構築する。【動画の視聴】</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。【動画の撮影】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2時の構成メモを基に、自分と他者の考えを比較させ、自分の考えの変容に生かすよう指導する。</li> <li>・ 聞き手には内容について、聞き取りメモに書き留めさせる。発表内容の改善に向けて、分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどを質問・助言させる。</li> <li>・ 聞き取りメモには、「自分の考えに生かす」という視点で必要な内容を書き込むよう指導する。</li> <li>・ 他者の意見や質問や助言を基に、再構築した自分の考えを、構成メモに赤ペン等で追加させる。必要に応じて、自分の発表動画を視聴させ、改善の資料として活用させる。</li> <li>・ 次時までには、ワークシートを基に再スピーチした動画を撮影しておくよう指示する。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現] ② ワークシート・観察</p>

### 第4時（第2次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 考えの再構築を生かした再発表の動画を視聴し、相互評価する。【動画の視聴】</li> <li>○ 単元の学習活動を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2回目の発表を他者と共有し、聞き手の質問や助言等を生かして、自分の考えがどのように変化したのか考えさせる。</li> <li>・ 話し手と聞き手の立場を経験したことと、自らの考えの形成との関連についても振り返らせる。</li> </ul>	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ① 観察・ワークシート</p>



## 6 検証授業の成果と課題

### (1) 成果

#### ア 「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた活動の設定

自分の考えとそれを支える根拠を意識して話の内容を構成したことで、聞いた内容をただメモするのではなく、どこに着目して聞くことが必要なのかを意識して取り組むことができた。また、他の人の修正した発表を聞くことで、聞いた内容等を生かして自分の考えを形成することについて考えを深めることができた。

#### イ 考えの形成を重視した活動の設定

聞き手から質問・助言された内容を必要に応じて構成メモに付け加えることで、自分の考えとそれを支える根拠や話の構成について理解を深めることができていた。また、同じテーマについて、様々な話し手による発表を聞くことで、自らの考えに対する理解を深めることができ、考えの再構築に生かすことができていた。

### (2) 課題

話し手の発表内容と自分の発表内容を比べ、共通点や相違点を的確に捉えることに課題が見られた。異なる意見から共通点を見いだすような活動を系統的に指導していく必要がある。また、質問や助言をする活動では、質問の目的が不明瞭であったため、互いの考えをより明確にするような質問が出にくいことがあった。教師が質問する目的を丁寧に説明することで、生徒に相手意識や目的意識を明確にもたせ、質問内容を考えさせることが可能となる。

### (3) 一人1台端末の活用について

第2時の構成メモの静止画の撮影、第3時の発表動画の撮影・視聴、第4時の再発表動画の視聴で使用した。発表を二度撮影して見比べることで、成長をより一層捉えやすくなり、第4時の振り返りに効果的につながっていた。また、今回の活動をログ（記録）として残しておくことで、学習の積み重ねを視覚化でき、成長を実感するのに有効である。

### 【生徒による活動の例】

第2・3時で使用したワークシートの一部（「学級をよくするためにできること」を発表する）

学級をよくするためにできること

まずは

- チャイム音席
- 学期から時々顔に合わない

次に

- 一人一人、時間算る、準備する、座る
- 給食準備中の行動

最後に

- しゃべる2人以上を話している
- 授業態度

授業中 私語注意する

スムーズに授業が進まなくなってしまう

近づく人への注意

△△さんの意見と同様に一人一人が真剣に授業に取り組むこと

## <指導事例2：第2学年>

「話すこと」 根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を考えたり工夫したりする力を育成する指導の事例

「聞くこと」 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる力を育成する指導の事例

### 1 単元名

自分の考えを提案しよう—話し手と聞き手の立場を生かして、自分の考えを形成する—

### 2 単元の目標

- (1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。  
〔知識及び技能〕 (2)ア
- (2) 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 A (1)イ
- (3) 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 A (1)エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。  
「学びに向かう力、人間性等」

### 3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	① 「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A (1)イ) ② 「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A (1)エ)	① 粘り強く話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめ、学習課題に沿って自分の考えを提案しようとしている。

### 4 教材

- ・教材（「異なる立場から考える」「国語2」）
- ・ワークシート

## 5 主な学習活動

### 第1時（第1次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標及び学習課題を把握する。</li> <li>○ 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解する。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して話の構成を工夫したり、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたりするという学習課題に取り組むことを理解させる。</li> <li>・ 他者の意見を理解したり、自分の意見を述べたりする際には、意見を支える根拠を明らかにすることが重要であることを理解させる。</li> </ul>	[知識・技能] ① ワークシート

### 第2時（第1次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ テーマ「学校を変えるための10の目標」について、構成メモを作成する。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時で学習に取り組んだ情報と情報との関係を振り返らせ、構成メモの作成とのつながりを意識させる。</li> <li>・ 自分の立場や考えが明確に伝わるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意しながら構成メモを考えさせる。</li> <li>・ 論理の展開などに注意して聞くという次時の見通しをもたせる。</li> </ul>	[思考・判断・表現] ① ワークシート・観察

### 第3時（第2次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 互いの提案を比較し、納得できるかどうかを考えながら聞き、質問・助言をする。【動画の撮影・視聴】</li> <li>○ 動画を活用し、本時の学習活動を振り返る。【動画の視聴】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2時に作成した構成メモを基に、自分と他者の提案を比較させ、自分の考えの変容に生かすよう指導する。</li> <li>・ 根拠の適切さや論理の展開などに注意しながら聞き、聞き取りメモに記録するよう指導する。</li> <li>・ 質問や助言をする際、必要に応じて動画を活用するよう伝える。</li> <li>・ 本時の学習を通して、考えが広がった点や深まった点、学習したことを今後どのように活用したいかをまとめさせる。</li> </ul>	[思考・判断・表現] ② ワークシート・観察

### 第4時（第2次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 聞き取りメモを踏まえて、自分の考えを再構築する。【動画の視聴】</li> <li>○ 再構築した内容を提案する。</li> <li>○ 単元の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の聞き取りメモや動画を基に、内容等の追加・削除等を行わせ、自分の考えを再構築させる。</li> <li>・ 再構築した内容を話させる。</li> <li>・ 自分の考えの変容を振り返らせる。</li> <li>・ 本単元の学習を通して、考えが広がった点や深まった点、学習したことを今後どのように活用したいかをまとめさせる。</li> </ul>	[思考・判断・表現] ① ワークシート・観察  [主体的に学習に取り組む態度] ① ワークシート・観察

## 6 検証授業の成果と課題

### (1) 成果

#### ア 「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた活動の設定

話し手と聞き手が一定の立場や考えをもてるように、生徒にとって身近な話題を設定した。ワークシートを活用しながら自分の考えを形成して発表するだけでなく、話し手の考えと自分の考えを比較しながら聞くことで、聞き手からの質問や助言等も生かし、自分の

考えを再構築することができていた。互いの質問や助言を「話すこと」に生かすという共通の目的が、質問や助言の質的改善において重要であることを確認することができた。

### イ 考えの形成を重視した活動の設定

聞き手からの質問や助言を基に、自分の考えを再構築するために必要な内容を記録させたことは、自らの考えの変容を振り返らせる際に効果的であった。また、質問や助言等を聞くことで、根拠の適切さや論理の展開等の工夫の効果を実感している様子が見られた。最初の提案に課題が見られた生徒も、他の人の提案を参考に構成メモを再構築していた。

### (2) 課題

構成メモ・聞き取りメモ・再構築するためのメモを一連の流れとして可視化できるワークシートを作成し、考えの違いを明確に理解できるよう工夫する必要があった。

話題の範囲が広く、互いの提案の何を比べたらよいかについて理解し、メモすることが必要かを判断することが難しい様子が見られた。複数の話を聞いても、比較が可能な話題を設定する必要がある。また、話し手の考えと自分の考えとを比較し、同じ考えであっても異なる根拠を用いていたり、異なる考えであっても同じ根拠を用いていたっていることなどに注意を向けながら聞くことができるよう指導の充実を図っていく必要がある。

### (3) 一人1台端末の活用

ペアや3人程度で相互評価をする際に、フィードバックの場面で動画を撮影し、考えを再構築する際に活用した。撮影と視聴の時間を確保するために4時間構成にすることで、一人1台端末を活用した質問や助言とそれを踏まえた再構築ができ、自分の考えを形成する力をより高め、他の教科にも生かせる力を育むことができる。また、「撮影する、見る、ためる、再び見る」のサイクルで一人1台端末を効果的に活用したことで、生徒は成長を実感できるとともに、教師も指導に生かすことができる。

### 【生徒による活動の例】

第2・4時で使用したワークシートの一部（「学校を変えるための取組」を提案する）

終わり	中	初め
<p>この「二週間」を比較することで、掃除をする必要性などを感じられるのではないかと、掃除をする「二週間」も設ける。</p> <p>★もっと詳しく！</p> <p>★比較した「二週間の写真や動画を示す</p>	<p>この現状を変えるために、あえて掃除をしない「一週間」を設ける。</p> <p>そして、いつも通り掃除をする「一週間」も設ける。</p> <p>この「二週間」を比較することで、掃除をする必要性などを感じられるのではないかと、掃除をする「二週間」も設ける。</p> <p>★もっと詳しく！</p> <p>★比較した「二週間の写真や動画を示す</p>	<p>○中に変えるための目標として、私が書したのは「みんなやるよ」</p> <p>みんなやるよ</p> <p>みんな掃除する意味をしっかりとらなければなりません。</p> <p>みんな掃除する意味をしっかりとらなければなりません。</p> <p>みんな掃除する意味をしっかりとらなければなりません。</p>

この現状を変えるために、あえて掃除をしない「一週間」を設ける。

そして、いつも通り掃除をする「一週間」も設ける。

この「二週間」を比較することで、掃除をする必要性などを感じられるのではないかと、掃除をする「二週間」も設ける。

★もっと詳しく！

★比較した「二週間の写真や動画を示す

### <指導事例3：第3学年>

「話すこと」 論理の展開などを考えて、話の構成を考えたり工夫したりする力を育成する  
指導事例

「聞くこと」 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自  
分の考えを広げたり深めたりする力を育成する指導事例

#### 1 単元名

説得力のある主張をしよう一話し手と聞き手の立場を生かして、自分の考えを形成する一

#### 2 単元の目標

- (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。  
〔知識及び技能〕 (2)ア
- (2) 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の  
構成を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力〕 A (1)イ
- (3) 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを  
広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力〕 A (1)エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化  
に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

#### 3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 具体と抽象など情報と情報との関係について深めている。(2)ア)	① 「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A (1)イ) ② 「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A (1)エ)	① 粘り強く話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容を評価して自分の考えを広げたり深めたりし、学習課題に沿って説得のある主張をしようとしている。

#### 4 教材

- ・教材（「スピーチで社会に思いを届ける」「国語3」）
- ・ワークシート

## 5 主な学習活動

### 第1時（第1次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標及び学習課題を把握する。</li> <li>○ テーマ「リーダーの条件」について考えを話すことで、構成メモと聞き取りメモの書き方を理解する。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論理の展開を工夫して話し、聞き取った内容を評価して、自分の考えを広げたり深めたりするという学習課題に取り組むことを理解させる。</li> <li>・ 具体的な事例を抽象化してまとめたり、抽象的な概念について具体的な事例で説明したりできることが重要であることを理解させる。</li> </ul>	[知識・技能] ① ワークシート

### 第2時（第1次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ テーマ「一人1台端末による影響」について話す。【画像・資料の提示】</li> <li>○ 聞き取った内容を評価する。</li> <li>○ 聞き取った内容を基に質問、助言をする。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習を基に、「話すこと」と「聞くこと」の観点を振り返らせ、構成メモと聞き取りメモのつながりを意識させる。</li> <li>・ 相手を説得できるように、論理の展開などを工夫して話させる。</li> <li>・ 自分の発表に取り入れたい点や疑問に思う点を記録させる。</li> <li>・ 聞き手からの質問や助言は記録させ、次時以降の学習に生かすよう指示する。</li> </ul>	[思考・判断・表現] ① ワークシート・観察

### 第3時（第2次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ テーマ「共生社会で最も必要なこと」について話す。【画像・資料の提示】</li> <li>○ 聞き取った内容を評価する。</li> <li>○ 聞き取った内容を基に質問、助言をする。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習を基に、「話すこと」と「聞くこと」の観点を振り返らせ、構成メモと聞き取りメモのつながりを意識させる。</li> <li>・ 相手を説得できるように、論理の展開などを工夫して話させる。</li> <li>・ 自分の発表に取り入れたい点や疑問に思う点を記録させる。</li> <li>・ 聞き手からの質問、助言を基に、自分の考えを広げたり、深めたりさせる。</li> <li>・ 自分の考えを形成するという次時の見通しをもたせる。</li> </ul>	[思考・判断・表現] ② ワークシート・観察

### 第4時（第2次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 気付いた点や質問、助言等を踏まえて再構築する。</li> <li>○ 再構築した内容について話す。</li> <li>○ 聞き取った内容を評価し、その内容を基に助言をする。</li> <li>○ 単元の学習活動を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習を基に、「話すこと」と「聞くこと」の観点を振り返らせ、自分の考えをより良いものにすることを意識させる。</li> <li>・ 構成メモと聞き取りメモを基に、考えを再構築させる。</li> <li>・ これまでの学習で学んだ話すときの注意点を気を付けて話をさせる。</li> <li>・ 良くなった点を中心に記録をさせる。</li> <li>・ 聞き手からの助言を基に、自分の考えの変容を振り返らせる。</li> <li>・ 自分の考えを形成するために「話すこと」と「聞くこと」を関連付けることの意義を実感させる。</li> </ul>	[思考・判断・表現] ① ワークシート・観察  [主体的に学習に取り組む態度] ① ワークシート・観察

## 6 検証授業の成果と課題

### (1) 成果

#### ア 「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた活動の設定

構成メモに聞き手からの質問や助言を記入する欄を設けることで、良い点や改善点を振り返ることができていた。また、聞き取りメモに話の構成を記録させることで、自身の考えに生かせる要素を探す手だてとなり、「話すこと」につながる学習となっていた。さらに、「聞くこと」に明確な目的意識をもたせることで、「話し合うこと」や他教科等の授業で、他の人の発表を基に自分の考えを形成する力の育成が可能になることを確認することができた。

#### イ 考えの形成を重視した活動の設定

聞き手は、構成に着目することで主張や根拠のつながりを把握することができた。話し手は、自分の考えを再構築するために必要な内容をメモに記録することで、自分の考えの形成や変容を把握する手だてとなった。再構築や再発表の時間を設定することで、多様な考えを参考に、新たな展開の工夫を踏まえた発表になった。

また、話すことが苦手な生徒にとっては、テーマについて考えたことを伝えることで、他の生徒に助言してもらう時間がもて、再発表に向けて内容等の追加・修正・改善する時間を確保することができる。さらに、参考になった考えを取り入れたうえで自分の考えを再構築してもよいという視点をもたせることで、生徒が自分たちで課題を発見し、その解決に向けて活動していくことができた。

### (2) 課題

同じグループで発表を聞き合うと、互いの変容は分かるものの、同じような話を繰り返し聞くことになっていた。今後は、発表形式の工夫や一人1台端末を活用した発表をさせるなど、生徒が再構築や再発表に取り組む意義を実感できるよう改善していく必要がある。

### (3) 一人1台端末の活用

根拠となる画像や資料を提示するために活用した。根拠の説得力が増すとともに、言葉だけでは伝わりづらい内容が分かりやすくなった。しかし、情報の引用に視点が置かれ、根拠となるデータや資料に対する検討が十分に行われていない様子が見られた。

【生徒による活動の例】

第3・4時で使用したワークシートの一部（「共生社会で最も必要なこと」を主張する）

**主張の工夫**  
 主張・導入、自分の意見を一言で出す。  
 本論・具体例から始める。  
 結論・共生社会で何が最も必要かを、まとめる。  
 反対意見を取り入れ対応する、思いがけずある。

**【聞き手からの助言・聞き手としての発見】**  
 ・伝えたいことが整理されていた。  
 ・主張を聴かざるを得ない理由が、伝わりやすくなる。  
 ・写真やグラフが本論を強調し、伝わりやすくなる。

**【展開の工夫】**  
 アンケート結果を示し、根拠の説得力をもたせる。  
 反対意見を取り入れ、意見の違いを対比させる。

**【聞き手からの助言・聞き手としての発見】**  
 ・アンケートの結果があることで、説得力が増した。  
 ・本論を分かりやすくするために接続語を活用すると、話の流れが整理しやすい。

**話しただことで見えてきた主張と根拠の方向性**  
 より具体的な例や数字、写真やグラフなどを用いて説得力のある根拠にする。

VI 研究のまとめ

本研究では、「考えを形成する力の育成を目指した、「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた指導の工夫」を研究主題とし、仮説に基づき検証を行った。以下、研究の成果と課題をまとめる。

1 研究の成果

(1) 「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた活動の設定

生徒は、自分の考えをもって聞くことで、話の展開を予測しながら聞くことが可能となり、自分の考えとの違いに気付いたり、自分の考えを広げたり深めたりするなど、「話すこと」に生かす内容を発見することができていた。

また、聞き手として考えたことについて話し手に質問・助言する中で、自分の話す内容を振り返るように促すことで、話すときに必要な構成の工夫や、具体例や体験等を生かした根拠の重要性などについて理解を深めていく様子が見られた。

(2) 考えの形成を重視した活動の設定

単元の最初に、自分の発表等について内容等を再構築をする活動に取り組むことを伝えてから、言語活動に取り組ませた。再構築をするための流れを明確にすることで、最初の段階では漠然とした考えであったものが、発表等に対する質問や助言、他の生徒の発表等への質問や助言を通して、自分の考えがより一層明確になり、考えが変容していく様子が見られた。また、発表等を準備する際に、原稿ではなく「構成メモ」とすることで、話す順序の変更や内容の追加等を柔軟に行わせることができ、考えの形成につながった。

(3) 一人1台端末の活用

主に、資料提示・動画撮影・課題提出の機能を活用した。資料提示の機能では、生徒が発表等の中で情報や画像・写真を見せることや、教師が発表等の流れや質問・助言の観点等を大型提示装置に提示するのに加え、生徒の端末にも配信することで、情報の共有を図ることができた。



動画撮影機能では、自分の発表等を撮影することで改善点を見付けることや、課題提出機能と組み合わせることで一つの教室で複数のグループが同時に発表等をして、教師による学習評価が可能となった。また、動画によって提出されることで、個別最適化した指導・助言が可能となり、おおむね満足できる状況に達する生徒が多く見られた。さらに、動画によってスピーチを記録することで、国語以外の教科や総合的な学習の時間などの動画とともに、生徒が自らの成長を実感できる資料として活用していくことができる。

## 考えを形成する力の育成を目指した、「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた指導例

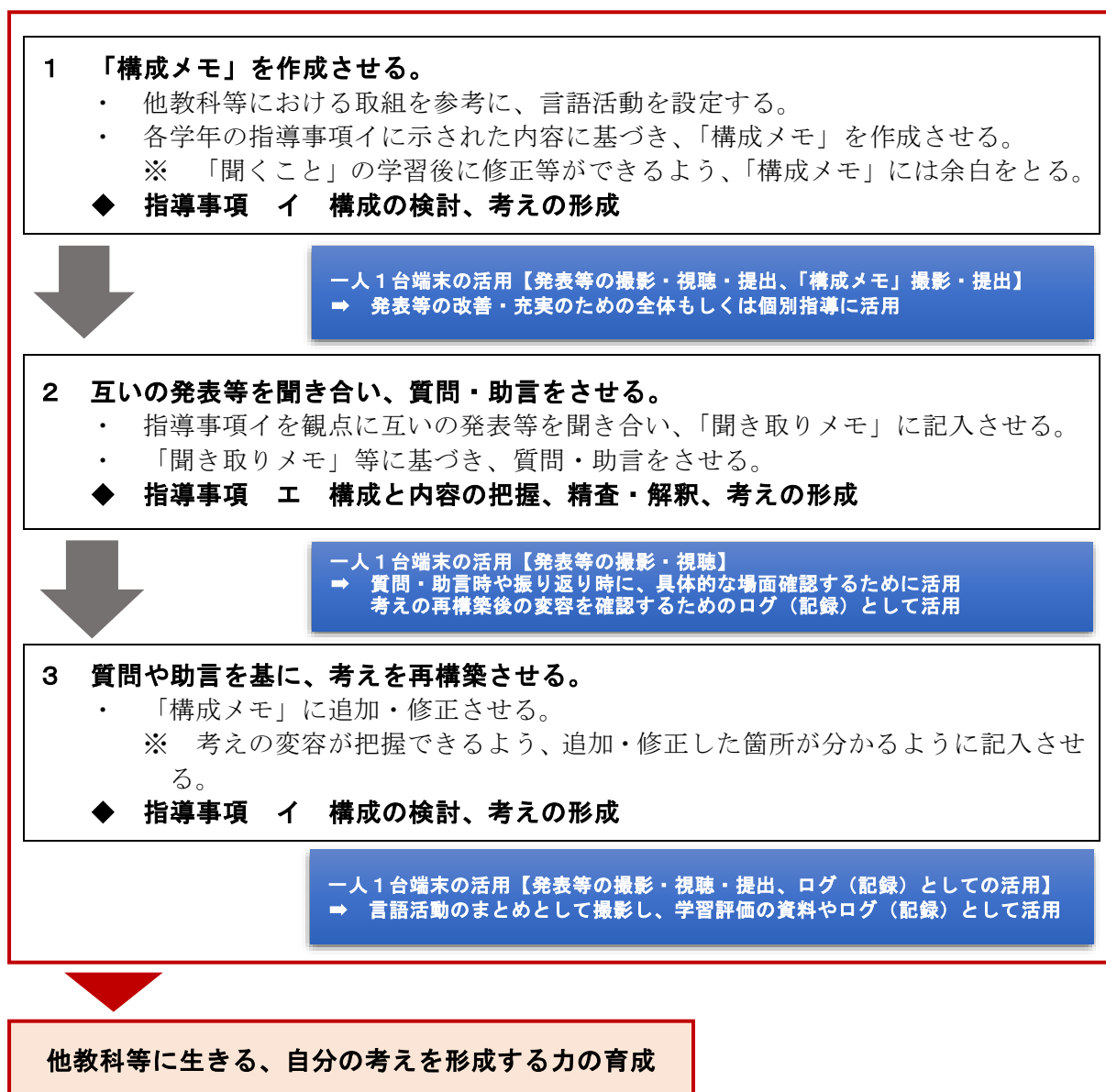


図 考えを形成する力の育成を目指した、「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた指導例

## 2 研究の課題

### (1) 「話すこと」と「聞くこと」を関連付けた活動の設定

「話すこと」と「聞くこと」を関連付け、両方の力を高めていくためには、聞き手自身が話題に対して一定の立場や考えをもった上で話を聞くことが前提となる。生徒の発達の段階も踏まえ、どのような話題や言語活動が適切なのか、多くの議論を必要とした。また、聞き手が聞いている間に記録する内容や質問や助言の時間の設定、ワークシートや活動時間など、指導事項に基づいて更なる工夫・改善を図っていく必要がある。

### (2) 考えの形成を重視した活動の設定

考えを形成する力を高めるためには、聞き手としての力が重要である。「聞くこと」の学習に時間をかけることでその効果は高まるが、「聞くこと」の指導時間が増加してしまう。今後は、実態を踏まえて行うとともに、より効果的に学習できるよう、指導すべき内容の重点化や焦点化等を進めていく必要がある。

考えの再構築後の発表等を動画で提出させることで、生徒一人一人の変容を見取ることができたものの、学習評価に時間がかかってしまうことも課題であった。観点をより一層焦点化した評価の工夫や、年間指導計画における取組時期の厳選などについても検討していく必要がある。

### (3) 一人1台端末の活用

インターネットを活用して最新の情報にアクセスし、発表等の準備をしたり、取得した資料を基に自分の考えを形成したりすることは、情報化が進展し様々な情報が氾濫している現代社会においては、重要な力である。しかし、情報の信頼性を十分に吟味できず、情報の事実関係や裏付ける根拠、一次情報の発信元や発信時期など、情報の信頼性について十分に確かめることなく使っている様子が見られた。

国語科では、知識及び技能の(2)情報の扱い方に関する事項イ「情報の整理」の指導事項において、情報の信頼性の確かめ方等について系統的に指導していく必要がある。また、学校全体での情報リテラシー教育の推進も、今後はより一層必要である。

## 令和4年度 教育研究員名簿

### 中学校・国語

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立麴町中学校	主任教諭	吉田 夏未
品川区立富士見台中学校	主任教諭	干場 依恵
世田谷区立三宿中学校	主任教諭	児島 正樹
葛飾区立水元中学校	主幹教諭	小日向 祥平
江戸川区立松江第五中学校	主任教諭	◎ 澤 祐介
青梅市立第一中学校	主任教諭	畑 美希子
東村山市立東村山第四中学校	主任教諭	久光 崇文
国分寺市立第五中学校	主任教諭	◎ 小幡 昌彦

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課

指導主事 笠井 淳子

令和4年度  
教育研究員研究報告書  
中学校・国語

令和5年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849